

教育子ども委員会  
説明資料

令和6年3月14日

教育委員会



# 目 次

	頁
1 学校教育情報ネットワークシステムの整備について	1
2 小学校のスクールカウンセラーへの相談に係る待ち日数について	3
3 いじめの認知件数について	4
4 不登校児童生徒について	5
5 校内の教室以外の居場所づくりについて	6
6 メタバースを活用した支援の実証事業について	7
7 小学校における学校外プールの活用について	9
8 防災用ヘルメットの入札結果について	10
9 学校プールの整備における消防隊進入口及び消防用取水口設置の考 え方について	11
10 図書館の子どもの貸出利用者数の推移について	12
11 図書館の利用者増に向けた取り組みについて	12
12 役職定年後に校長任用する場合の任用制度について	13
13 再任用校長任用者数の推移について	14
14 小学校、中学校及び特別支援学校に係る校長・教頭の任用候補者選 考審査受験者数及び昇任者数の推移について	15
15 「県民の日学校ホリデー」に係る検討の経緯について	16
16 「県民の日学校ホリデー」に関する教育委員会会議における主な意 見について	17
17 「県民の日学校ホリデー」のアンケートについて	18
18 「県民の日学校ホリデー」の保護者対象アンケートにおける「その 他」の主な記述内容について	25

# 1 学校教育情報ネットワークシステムの整備について

## (1) 目的

区 分	内 容
教育データ利活用	一人一人に応じたきめ細やかな指導や支援を行うことで、「個別最適な学び」の一層の推進を図ること
働き方改革	校務の効率化を進めることで、教員自身が学び自らの授業を磨く時間や子どもと接する時間を確保すること
業務継続性の確保とセキュリティ強化	大規模災害や感染症流行といった有事でも校務を継続できる環境整備を行うとともに、情報漏洩リスクの低減やサイバー攻撃対策を図ること

## (2) 現在の主な課題

- 校務系と学習系のネットワークが分離していることから、校務に用いるパソコン端末と、子どもの指導に用いる指導者用タブレット端末を使い分ける必要があるほか、端末間のデータの共有や移行など事務上の手間が生じている。また、端末間のデータ移行に際してUSBメモリを利用していることから、USBメモリ紛失時における情報漏洩リスクがある。
- 校務に用いるパソコン端末は職員室から持ち出しての利用が出来ないことから、事務処理などに関して働く場所が職員室に限定されている。
- 校務に用いるパソコン端末はインターネットの利用に制限があり、チャットやWeb会議などのシステムやサービスの活用が困難であることから、教職員間のやりとりが対面や電話を前提とした働き方となるほか、ペーパーレス対応が進まない。
- 教育データの利活用が国から求められているが、システムが本市専用の環境で運用されていることから、データ連携などの対応が困難となっている。

### (3) 整備による主な効果

- 校務のほか、指導や資料作りも一台の端末で行うことができるため、業務の効率化につながる。
- 端末間でのデータ移行に伴うUSBメモリの利用が不要となることから、事務上の手間を削減できるほか、情報漏洩リスクを低減できる。
- 校務を出張先や教室でも行うことができるため、時間を有効活用することができるほか、有事の際には自宅などからでも校務を行うことができる。
- チャットやWeb会議等を活用して、場所を問わず、ペーパーレスでの情報共有ができる。
- 学習面でつまずきを抱えた子どもや生活面での支援が必要な子どもを早期に発見し、適切な対応に繋げていくなど、教育データの利活用ができる。

### (4) 効果の具体例

- 教室で把握した「子どもの出欠状況」、「日々の気づき」等の様々な情報を休み時間などにその場でシステム入力が可能となるため、職員室と教室を往復する時間が不要となるほか、メモとシステムへの重複した記録が不要となる。
- 一台の端末で資料の作成や授業での活用などの業務が完結するため、USBメモリの保管庫からの出し入れ、記録簿の記入、データ移行などにかかる時間が不要となるほか、USBメモリの紛失による情報漏洩を防止することができる。

## 2 小学校のスクールカウンセラーへの相談に係る 待ち日数について

### (1) 最長待ち日数

(単位：校、%)

区 分	校 数	割 合
待ちなし	52	19.9
1～6日間	14	5.4
7～13日間	51	19.5
14～20日間	82	31.4
21～27日間	30	11.5
28～34日間	24	9.2
35日間以上	8	3.1
計	261	100

(注1) 令和6年2月に実施したアンケート調査の結果を掲げた。

(注2) 割合は、小数第1位未満を四捨五入しているため、総数と計とが一致しない場合がある。

### (2) 年間平均待ち日数

(単位：校、%)

区 分	校 数	割 合
待ちなし	65	24.9
1～6日間	39	14.9
7～13日間	99	37.9
14～20日間	53	20.3
21～27日間	2	0.8
28日間以上	3	1.1
計	261	100

(注1) 令和6年2月に実施したアンケート調査の結果を掲げた。

(注2) 割合は、小数第1位未満を四捨五入しているため、総数と計とが一致しない場合がある。

### 3 いじめの認知件数について

(単位：件)

区 分		件 数
小 学 校		6, 080
中 学 校		1, 473
高 等 学 校		66
特 別 支 援 学 校	小 学 部	0
	中 学 部	1
	高 等 部	9
	小 計	10
計		7, 629

(注) 令和4年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」における数値を掲げた。

## 4 不登校児童生徒について

### (1) 校種別人数

(単位：人)

区 分	人 数
小学校	1, 845
中学校	3, 108
計	4, 953

(注) 令和4年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」における数値を掲げた。

### (2) 要因別人数・割合

(単位：人、%)

区 分	人 数	割 合
無気力・不安	2, 914	58. 8
生活リズムの乱れ、あそび、非行	537	10. 8
いじめを除く友人関係をめぐる問題	434	8. 8
親子の関わり方	293	5. 9
学業の不振	241	4. 9
入学、転編入学、進級時の不適應	112	2. 3
教職員との関係をめぐる問題	70	1. 4
家庭の生活環境の急激な変化	63	1. 3
学校のきまり等をめぐる問題	56	1. 1
家庭内の不和	43	0. 9
進路に係る不安	27	0. 5
いじめ	21	0. 4
クラブ活動、部活動等への不適應	5	0. 1
該当なし	137	2. 8
計	4, 953	100

(注1) 令和4年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」における不登校の主要因で計上した。

(注2) 割合は、小数第1位未満を四捨五入しているため、総数と計とが一致しない場合がある。



## 5 校内の教室以外の居場所づくりについて

### (1) 利用状況

(単位：人)

区 分	人 数
居場所のみを利用した生徒	320
居場所と教室等を併用して利用した生徒	395
計	715

(注) 令和6年1月末日現在の数値を掲げた。

### (2) 利用内容

区 分	内 容
利用者の 主な過ごし方	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書や学習プリントによる学習</li> <li>○学校の補助教材やA Iドリルによる学習</li> <li>○民間オンライン学習プログラムによる学習</li> <li>○自宅から持参した教材による学習</li> <li>○読書や絵画・工作等の創作活動</li> <li>○ボードゲームやカードゲーム等を活用したグループ活動</li> </ul>
特徴的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>○キャリアナビゲーターが生徒と語り合い、関心を向けた書籍を集めて居場所に図書コーナーを設けた。</li> <li>○スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーが関わり、ボードゲームやカードゲームなどに取り組む中で、対人関係などを学ぶソーシャルスキルトレーニングを定期的に行った。</li> <li>○I C T機器を活用し、全校集会や教室の授業等を居場所 で視聴・参加することができるようにした。</li> </ul>

## 6 メタバースを活用した支援の実証事業について

### (1) 概要

区 分		内 容
対象者		学校外の機関や学校内で専門的な相談・指導等を受けていない不登校児童生徒
アカウント数		500アカウント
実証期間		令和6年9月～令和8年3月
開設時間		週3日 10時～16時
主な内容	フロア	小学生用と中学生用の2フロアを構築
	支援員	各フロアに1人ずつ配置
	オンライン授業	小学生1教室、中学生2教室に1人ずつ講師を配置し、午前・午後それぞれ45分授業を2コマ実施
	学習室	自由に利用できる学習室を開設
	オンライン体験活動	週1回実施（1コマ）
	オンライン相談	週1回実施（2コマ）

## (2) オンライン授業の概要

- 学年・教科の区分を設けて授業を実施するとともに利用者が楽しく意欲的に参加できるよう内容を工夫
- 制限は設けないため、利用者は該当学年以外でも興味・関心のある授業に参加可能
- 双方向型のWeb会議システムを活かし、利用者の反応に合わせた問いかけや励ましの声かけを行うなど、参加しやすい温かい雰囲気を実施
- 学習への興味・関心を高めるための特別授業を小学生・中学生向けにそれぞれ週2回実施（2コマ）

## 7 小学校における学校外プールの活用について

(1) 新築または大規模な改修から30年以上経過したプールを使用している校数  
(単位：校)

区 分	30～ 34年	35～ 39年	40～ 44年	45年以上	計
校 数	61	46	34	17	158

(注1) 令和5年度末時点の校数を掲げた。

(注2) 統合により学校施設を廃止する予定の高坂小学校を除いた校数を掲げた。

(2) 学校外プールが1.2km以内にある校数

(単位：校)

区 分	校 数	うち、新築または大規模な改修から40年以上経過したプールを使用している校数
民間プール	114	25
市営温水プール	29	6

(注) 市営温水プールは、令和5年度末に廃止される山田西プールを除く。

## 8 防災用ヘルメットの入札結果について

(単位：個、円、者)

区 分	数 量	落札金額 (1個当たりの単価)	応札者数
元年度	20,132	31,808,560 (1,580)	3
2年度	20,000	29,600,000 (1,480)	4
3年度	20,120	25,653,000 (1,275)	3
4年度	20,000	24,760,000 (1,238)	3
5年度	20,000	23,740,000 (1,187)	3

(注) 落札金額(1個当たりの単価)は、税抜金額を掲げた。

## 9 学校プールの整備における消防隊進入口及び消防用取水口設置の考え方について

### (1) 学校プールの採水口等設置指導基準（平成元年1月11日消防長通知）

#### 第3 消防隊進入口及び消防用取水口

消防隊進入口及び消防用取水口は、屋外プール（屋上プールを除く。）及び屋内プールのうちで1階部分に建設するプールについて設置するものとし、次に掲げる事項に適合すること。

（以下略）

### (2) 学校整備の留意事項

#### 3. 設計編（新・増改築について）

##### (3) 各室の設計について

プール

⑨ 消防用水としての配慮をする。

## 10 図書館の子ども貸出利用者数の推移について

(単位：人)

区分	平成30年度	令和4年度	差引
0～6歳	188,993	175,502	△13,491
7～12歳	362,097	303,341	△58,756
13～15歳	83,051	68,070	△14,981
16～18歳	43,238	35,352	△7,886
計	677,379	582,265	△95,114

(注) 図書館に来館して貸出利用した延べ人数を掲げた。ただし、千種図書館の利用者数を除く。

## 11 図書館の利用者増に向けた取り組みについて

区分	内容
子ども対象の 主な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>○赤ちゃんへの絵本プレゼント事業</li> <li>○自動車図書館の活用などによる館外事業</li> <li>○幼稚園・保育園・学校との連携支援</li> </ul>
大人対象の 主な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>○主に高齢者を対象とした音読教室や認知症、健康に関する事業</li> <li>○主に働く世代を対象とした夜間の講座やビジネス支援に関する事業</li> <li>○主に子育て世帯を対象とした他機関と連携した子育て相談</li> </ul>

1 2 役職定年後に校長任用する場合の任用制度について

区 分	6 1 歳	6 2 歳	6 3 歳	6 4 歳	6 5 歳
6 0 歳定年職員 (6 1 歳)	再任用				
6 1 歳定年職員 (6 0 歳)	特例任用	暫定再任用			
6 2 歳定年職員 (5 9 歳)	特例任用		暫定再任用		
6 3 歳定年職員 (5 8 歳)	特例任用			暫定再任用	
6 4 歳定年職員 (5 7 歳)	特例任用				暫定 再任用
6 5 歳定年職員 (5 6 歳)	特例任用				

(注) ( ) 内は、令和 5 年度末現在の年齢を掲げた。



### 1 3 再任用校長任用者数の推移について

(単位：人)

区 分	人 数
令和元年度	2
令和2年度	3
令和3年度	6
令和4年度	10
令和5年度	13

1.4 小学校、中学校及び特別支援学校に係る  
校長・教頭の任用候補者選考審査受験者数  
及び昇任者数の推移について

(1) 受験者数

(単位：人)

区 分	校長任用候補者	教頭任用候補者
令和元年度	109	88
令和2年度	92	80
令和3年度	96	95
令和4年度	115	87
令和5年度	112	94

(2) 4月1日付昇任者数

(単位：人)

区 分	校 長	教 頭
令和2年度	76	89
令和3年度	72	84
令和4年度	67	79
令和5年度	63	73

## 1.5 「県民の日学校ホリデー」に係る検討の経緯について

区 分	内 容
12月 1日～ 8日	保護者対象アンケート調査を実施
12月 6日～13日	子ども対象アンケート調査を実施
1月18日	教育委員会会議において協議題として協議
1月25日	令和6年度は、「県民の日学校ホリデー」を実施しないことを教育委員会事務局内で決定
2月 1日	令和6年度は、「県民の日学校ホリデー」を実施しないことを市長に報告
2月 8日	令和6年度は、「県民の日学校ホリデー」を実施しない旨の報告書を県へ提出
2月 9日	令和6年度は、「県民の日学校ホリデー」を実施しないことを市立学校（園）長へ伝達

## 16 「県民の日学校ホリデー」に関する教育委員会会議 における主な意見について

区 分	内 容
開催日	令和6年1月18日
出席者	坪田教育長、西淵委員、鎌田委員、山本委員 (中谷委員は書面で意見を提出)
主な意見	<p>○県民の日学校ホリデーは3つの目的（①休み方改革、②親子で社会的な体験、③県に対する理解と愛着等の醸成）がある。県民の日学校ホリデーの実施でその目的を達成するには、①は学校休業日を引き金にするにはあまりにも授業時数が厳しく、②は親の休日の関係で社会的体験ができる子とできない子が出てくる。③は必ずしも学校を休みにする必要はない。</p> <p>○学校休業日を実施するとしたら、授業時数が減った分について振替授業をやるなどの工夫が必要。また、企業に理解してもらい、社会的条件がもっと充実してきてからの方がいいのではとも感じている。</p> <p>○県民の日学校ホリデーにちなんだイベントに参加した人をもっと増やすべき。</p> <p>○サービス業など1日休業することは難しい業種もあると思う。</p> <p>○1回やっただけでは、やるべき、やってはいけないの判断はできない。1回だけで終わるのではなく、2、3回やってみて、その後で続けるか検討するのが、一般的な進め方だと思う。</p> <p>○県民の日学校ホリデーの枠に限定せず、本市学校教員の働き方改革や子どもの体験的活動に資する機会を設けるという本来の目的に沿うことが重要である。</p>

## 17 「県民の日学校ホリデー」のアンケートについて

### (1) 保護者対象アンケート

#### ア 概要

(ア) 調査期間 令和5年12月1日～12月8日

(イ) 調査方法

区 分	内 容
対 象	市立幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校に通う子どもの保護者
対 象 数	約20万人
調査方法	保護者あてメール又はアプリで回答
回 答 数	66,110件

#### イ 結果

(ア) 子どもは誰と過ごしたか

(単位：%)

区 分	割 合
父 母	67.0
兄 弟 姉 妹	36.3
祖 父 母	13.8
親 戚	3.4
友 だ ち	12.6
一 人	7.7
そ の 他	5.8

(イ) 子どもはどのように過ごしたか

(単位：%)

区 分	割 合
① 県民の日学校ホリデーにちなんだイベントに参加した	1.9
② ①以外の体験的な活動（施設見学や旅行、キャンプ、買い物など）を行った	32.1
③ 新たな運動・文化活動（小学校）、部活動（高等学校）に参加した	1.1
④ トワイライトや学童に参加した	3.9
⑤ ①～④以外の内容で、友だちと一緒に過ごした	8.5
⑥ 塾や習い事、デイサービスなどに行った	8.8
⑦ 祖父母や親せきの家に行った	8.4
⑧ 自宅で過ごしていた	40.3
⑨ わからない	0.6
⑩ その他	6.0

(ウ) 子どもはどうだったか

(単位：%)

区 分	割 合
とても有意義だった	31.2
有意義だった	34.5
あまり有意義でなかった	21.1
有意義でなかった	13.2

## (2) 子ども対象アンケート

### ア 概要

(ア) 調査期間 令和5年12月6日～12月13日

(イ) 調査方法

区 分	内 容
対 象	小・中学校：各区1校計32校の児童生徒 高等学校：2校の生徒
調査方法	子どもたちの1人1台端末から回答
回 答 数	11,344件

### イ 結果

(ア) 誰と過ごしたか

(単位：%)

区 分	小学校	中学校	高等学校
父 母	74.1	64.0	54.1
兄 弟 姉 妹	56.0	46.9	39.6
祖 父 母	15.1	10.8	9.4
親 戚	6.1	3.5	4.1
友 だ ち	23.2	36.5	19.5
一 人	6.9	12.7	30.5
そ の 他	4.0	2.1	1.6

## (イ) どんな一日だったか

(単位：%)

区 分	小学校	中学校	高等学校
とてもよい1日だった	68.8	69.2	65.1
まあまあよい1日だった	24.9	28.1	25.2
あまりよくない1日だった	3.1	1.6	6.9
よくない1日だった	2.0	1.1	2.8
その他	1.2	0.0	0.0

## (ウ) どのように過ごしたか

(単位：%)

区 分	小学校	中学校	高等学校
県民の日学校ホリデーにちなんだイベントに参加した	3.6	2.2	6.3
4連休になったので、普段行けないところへ行った	36.8	29.1	22.3
外で遊んだ	34.3	34.6	17.3
新たな運動・文化活動に参加した	2.7	5.9	4.4
トワイライト・学童に参加した	5.0	0.3	0.9
塾や習い事、デイサービスに行った	16.1	16.9	10.1
自宅で過ごした	43.1	44.6	56.0
その他	8.4	0.0	14.2



＜参考＞愛知県が行った「『あいち県民の日』・『あいちウィーク』等に関する県民意識調査結果」について

(1) 概要

ア 調査期間 令和5年12月22日～12月25日

イ 調査方法

区 分	内 容
対 象	愛知県内に居住する18歳以上の県民
調査方法	インターネット調査会社の登録モニターのうち、条件に合致する対象者を無作為に抽出してインターネットでアンケートを配信
回 答 数	2,200人

(2) 結果

ア 「県民の日学校ホリデー」を知っていたか

(単位：%)

区 分	割 合
名称も大体の内容も知っていた	25.6
名称を聞いたことがある程度	27.0
まったく知らない	47.3

イ 「県民の日学校ホリデー」を何で知ったか

(単位：%)

区 分	割 合
テレビ（ニュース、情報番組）	51.3
家族、友人・知人から	20.7
インターネットニュース	9.3
テレビ（CM）	10.9
新聞	12.1
学校・幼稚園から （学校ホリデー対象の子を持つ方の回答）	17.7 (53.0)

ウ 休み方改革を促す導入についてどう思うか

(単位：%)

区 分	割 合
良いことだと思う	35.5
どちらでもない	49.4
良いことだと思わない	15.0

エ 「県民の日学校ホリデー」に合わせ、休みをとったか

(単位：%)

区 分	休み取得率
全体	39.0
小学生の子を持つ方	45.3
中高生の子を持つ方	23.7

オ 「県や市町村」が施設の割引や無料開放等、「民間事業者」がお得なサービスや特典を実施していたことを知っていたか

(単位：%)

区 分	知っており、 利用した	知っていたが、 利用しなかった	まったく 知らなかった
行政による連携事業	5.5	53.0	41.5
民間事業者による協 賛事業	3.3	36.5	60.1

カ どのように過ごしたか

(単位：%)

区 分	割 合
「あいちウィーク」に関連したイベント等に参加した	6.6
住んでいる市町村内の場所や施設に出かけた	14.3
愛知県内の場所や施設に出かけた	15.9
県外の場所や施設に出かけた	14.8
自宅で過ごした	56.0

キ 休みを取らなかった理由

(単位：%)

区 分	割 合
自身の都合に合わせた休暇取得を優先させたかった	13.3
シフト制等になっていて、休みがとれなかった	16.8
勤務先が普段から休みを取りづらい	16.8
自分の代わりに勤務する人がいないため、休みが取れなかった	15.9
休むと給料が減るため、休みが取れなかった	17.7
繁忙期にあたるため、休みが取れなかった	14.2

ク 親が休みを取らなかった子はどのように過ごしたか

(単位：%)

区 分	小学校 1～3年生	小学校 4～6年生	中学生	高校生・ 高専生
自分以外の保護者がいて、自宅で過ごした	33.3	17.6	18.8	9.1
子どもだけで、自宅で過ごした	16.7	32.4	41.7	52.3
放課後児童クラブ（学童）に参加した	16.7	2.9	—	—
祖父母や親戚の家で過ごした	13.3	11.8	2.1	2.3
上記以外の内容で、友達と一緒に過ごした	6.7	8.8	20.8	6.8
塾や習い事、デイサービスなどで過ごした	3.3	8.8	6.3	9.1
わからない	6.7	11.8	8.3	11.4

## 18 「県民の日学校ホリデー」の保護者対象アンケートにおける「その他」の主な記述内容について

- 学区の違うお友達と一日中遊ぶ事ができました。土日はお父さんが休みだったり、平日は学校が違うと代休や短縮も一緒とは限らないので、長期休み以外ではほぼ遊べなかつたので子供達喜んでました。
- 父親と京都の伏見稲荷神社に行きました。中一の弟は母親と平日ランチを楽しんで、誕生日用のiPhoneを選びにいきました。休日や夏休みなどの平日だと混むところも、行きやすくて良かったので、来年も実施して欲しいです。
- 東京で単身赴任している父親に夏休みぶりに会いに行けました。子供にとってとても有意義なお休みとなりました。
- 2泊3日で、福井恐竜博物館と金沢旅行に家族で出かけ大変有意義な時間でした。県民の日学校ホリデーに感謝です。
- 祭日扱いでないと両親は休みがとれず、子どもの預け先がなく困りました。お休みが増えるのは子どもにとってイベントに参加できたり素敵だと思いますが、親も休めるよう公的なお休みとしていただくことを期待しております。
- 連休になってしまい親が仕事を休むのが大変だったので、祖父母宅へ泊まりで預けに行った。子供にとっては休みで嬉しいかもしれないが、仕事を休めない親にとってはタイミングが負担に感じた。
- 共働きで、病院も会社も通常営業であり、パート勤務者が優先して休みをとるため正社員は人員不足で休みが取れない。愛知県の祝日扱いで会社や病院も休みになれば良いと思うが、トワイライト等もやっていないため上の子が小学生の世話をする他なく逆に寂しい思いをさせてしまった。
- 両親ともに正職員でパートさんの休みが優先のため休みが取れず、トワイライトも休みのため中学生の姉と自宅でお留守番になってしまった。
- 母の職場に同行し、職場で一人で過ごしてほしかったが、相手をしてもらい迷惑かけることが多かった。一人で公園に行くことにもなった。
- 高校生の姉と休みが違ったので、家族揃って過ごす事ができなかった。学校は県で統一して同日の休みにして欲しい。兄弟で休みが異なると親は2日仕事を休む事になり、困る。映画を見に行った

- 両親共に仕事のため、暇でした！来年は学校へ行きたいので、休日なしにして欲しい。
- 共働きでどちらかが休みを取らないといけない。子育て世代の職場で休みは取れない。家族みんなで出かけることは考えられない。インフルエンザの流行る時期にイベントは行きたくない。もうすこし共働き世代の負担や感染症の流行を考えて欲しい。
- 一人で図書館に行き、ランチをお店で食べて過ごした。推奨できる行動でないので、まだ、小学校に行ってもらっていた方がまし。
- 色々な意味で余裕のある家々は出かけているため、友達とも遊ばず、過ごした。
- 親が休める職業の人ばかりではないしイベントをやっても行きたい子ばかりではないので自宅で過ごすことになるので来年からはやめてほしいです
- 母子家庭のため、仕事を休むと生活が厳しいので（県は有給を取っ手と言うが、コロナやインフル、体調不良などで有給なんて取れません。）預け先を必死に探して姪と過ごしてもらいました。友達がテーマパークなど行ったなど聞いて子供はとても落ち込んでいました。
- 自由回答ができる欄がないのでこちらで回答させていただきます。職場で半数ほど休みになり残された職員は大変だったと思う。また、休めない職種もあるので小学校だけ休みとかはやめてほしい。共働き、シングル等の家庭のことを考えてほしい。このアンケートだと、大半は旅行に行ったり親と過ごしたりして「子供にとってよかった」という評価になってしまう。正當に評価できるよう、大人にとってもどうだったのか聞いてほしい。
- 父親が仕事だったので、母と子でショッピングモールへ行きました。家族全員で休みなら良かったと思います。
- 預けられないため仕事に連れていった。このような突然のお休みは要らない。特に連休が多すぎるので必要ないと思う。休日より、学校で何かイベントして、みんなと遊んで過ごす方が余程有意義な時間を過ごせたと思います。県民ホリデーイベントはすごい人混み…なんのためのお休みなのか？

- 両親が揃って休める訳でもなく、職場でも一斉に子育て世代の職員が休むことになり、調整が難しかった。その為、事前に出かける予定も立てにくく、結局は習い事の振替や近所の公園で過ごした。
- 名古屋市立高校ですが前後にテストがあり、4連休なのにどこにも行けませんでした。県民の日学校ホリデーを設定しておきながら、学校はその意図を全く無視するなら設定なしでいいです。来年からなしでお願いします。
- 子供はお休みでも父親は仕事だったので遠出は難しく。近場で過ごすことになりました。親の仕事もお休みでなければあまり意味を感じませんでした。映画に行きました
- 県民の日を休みにするのは本当に迷惑で即刻やめていただきたいです。共働きが増えているのになぜこんなことをするのか怒りしかありません。仕事を休める親ばかりではありません。その子たちが学校に通うより有意義な時間をどうやって過ごせるのでしょうか？子どものことを考えた制度とはとても思えません。学童も親が運営しており、その運営はかなり大きな負担となっています。学童を県や市で運営していただきたいくらいです。学童運営を親にやらせているのに、先日は市だか県だかから学童はできるだけ開けるようになどと父母会に相談もなく勝手に案内がきて腹が立ちました。このようなこと県や市が命令するのなら運営もやるべきではないでしょうか？学校ホリデーについてどこに意見してよいかわからずこのようなところに書いてしまひすみません。
- 周りが旅行へ家族で行く中、父親は仕事でどこへも行けず、可哀想な思いをさせた

(注1) 記述内容については、原文のまま掲げた。

(注2) 保護者対象アンケートのうち、「子どもはどのように過ごしたか」の選択肢「その他」に記述された主な内容を掲げた。